

# 第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

岡山大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構



## (I) 教育に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### ① 教育の成果に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画で「教育の成果・効果（目標達成度）を厳密に検証する」としていることについて、入試成績と入学後成績等の追跡調査、学生・同僚による授業評価、在学生・卒業生・就職先企業等に対するアンケート等、教育の成果・効果を多面的に検証している。特に、授業評価アンケートは学部大学院のほとんどの科目で実施し、学生からの回答率が高く、全体的な満足度は相応の値を示していることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画で「教養教育における目標の達成」としていることについて、学生参画型FDで提案された授業科目が展開され、「課題探求指向性の獲得」につながっているということは、特色ある取組であると判断される。

## ② 教育内容等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8 項目）のうち、2 項目が「良好」、6 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、6 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### (優れた点)

- 中期目標で「先進的・学際的分野にも対応した教育課程を構築する」としていることについて、学際性、応用力、実践力等を養う授業科目の整備、コア・カリキュラムの確立に向けたカリキュラムの改善が着実に行われており、また、「岡山大学ユネスコチェア」による教育プログラムを開始し、教育課程の構築を図っていることは、優れていると判断される。

#### (特色ある点)

- 中期目標で「教養教育と学部専門教育の均衡のとれた教育課程の構築を図る」としていることについて、マッチングプログラムコースを設置し、学部横断型履修体系に取り組み、学生を主体とした教育内容を推進していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「自立した研究者・技術者を育成するため、学生の研究活動を適切に評価する方法を検討し、その導入を図る」について、平成 19 年度に大学院教育改革推進委員会において電子ポートフォリオ方式の大学院生教育指導カードシステム(eGRAD)の導入を決定し、準備を進め、平成 21 年度より大学院博士後期課程の全学生に対して導入している。これにより研究活動等の履歴の振り返りや教育研究上の問題点の早期発見・対応等、指導の充実と意思疎通の円滑化を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

## ③ 教育の実施体制等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の

下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### （優れた点）

- 中期計画「大学教育に関する研究・開発及び企画立案を担う教育開発センターが中心となり、全学的、組織的に教育内容及び授業方法改善の取組みを推進する」について、FD研修会や授業ピアレビュー、さらには授業評価アンケート等授業方法の改善に全学で取り組み、これらの成果をウェブサイト版『ティーチングティップス』に反映させ、各教員が教育方法や授業内容を改善するシステムを確立させたことは、教育内容・授業方法の改善を多面的に推進している点で、優れていると判断される。

##### （特色ある点）

- 中期計画「学生を積極的にFDに参加させることを通じて、学ぶ者の視点を授業改善に取り込み、有効なFDを展開する」について、学生を積極的にファカルティ・ディベロップメント（FD）に参加させることによって、学ぶ者の視点を授業改善に取り込み、学生参画型FDをテーマとしたシンポジウム及びワークショップの開催等、多様な取組によって学生参画型FDの定着を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

#### ④ 学生への支援に関する目標

##### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、4項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

#### <特記すべき点>

##### （特色ある点）

- 中期計画「学生による社会貢献の一環としてボランティア活動を大学教育の中に位置づけ、学生のボランティア活動への参加を適切に評価・支援する体制を整える」について、学生相談室のピアサポーター（学生）のボランティア活動を単位化していることは、学生のボランティア活動への参加を積極的に推進している点で、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画「学生生活の利便性を増進するため、サークル活動などの課外活動等を活性化させ、これを支援する施設を整備し、かつソフト面の充実を図る」について、平成19年度から、課外スポーツ活動を単位化する教養教育科目を開講していることは、課外活動の活性化を図っているという点で、特色ある取組であると判断される。

## **(Ⅱ) 研究に関する目標**

### **1. 評価結果及び判断理由**

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### **2. 各中期目標の達成状況**

#### **① 研究水準及び研究の成果等に関する目標**

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、4項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### **<特記すべき点>**

##### **(特色ある点)**

- 中期目標で「既存の各学術領域や基盤領域における学術研究の一層の推進を図るとともに、新しい学術の創成を図り、独創的な研究の展開を推進する」としていることについて、重点プロジェクトの一つ「インド国を拠点とした新興・再興感染症研究」は、新興・再興感染症研究拠点形成プログラムの新規小規模海外研究拠点形成を目指

した予備調査研究提案に採択され、平成19年度にインドに岡山大学インド感染症共同研究センターを設立し、腸管感染症を中心に意欲的に研究活動を展開していることは、特色ある取組であると判断される。

## ② 研究実施体制等の整備に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標(7項目)のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、7項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### (優れた点)

- 中期計画で「全国共同利用施設として教育研究等のための研究基盤に係る設備の整備と提供を行うとともに国内・国際共同研究を推進し、この分野における国際研究拠点とする」としていることについて、地球物質科学研究センターは、21世紀COEプログラムに採択された「固体地球科学の国際研究拠点形成」の研究推進により、全国共同利用施設として、この分野の国際研究拠点を形成し、同プログラムの中間評価において、高い評価を得るとともに、国際評価・勧告委員会の最終報告書においても高く評価されていることは、優れていると判断される。

## (Ⅲ) その他の目標

### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(1項目)が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(1項目)が「おおむね良好」であることから判断した。

## 2. 各中期目標の達成状況

### ① 社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画で「地域における生涯学習の拠点としての責務を果たす」としていることについて、平成 17 年度から岡山大学学術成果リポジトリを構築し、その中の地域・国内向けシステムを県立図書館のシステムと連携させたことから、年間 16 万件を超えるアクセスを得ていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「国際交流推進機構を中核として、国際開発サポートセンターを通じた国際援助機関が行う人材育成事業への参画及び独立行政法人国際協力機構（JICA）や地方公共団体との連携による専門家の派遣、研修員の受入れにより発展途上国への教育・研究協力及び社会貢献を推進する」について、岡山大学インド感染症共同研究センターの設立やユネスコチェア等での活動を通じ、発展途上国への社会貢献を推進し、毎年、JICA を通じて専門家を発展途上国に派遣していることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画「教育研究の将来の発展という視点から、学術交流、単位互換等、地域の大学間連携を一層推進する」について、岡山大学のリーダーシップによる大学コンソーシアム岡山の設立、中でも、大学コンソーシアム岡山への連携の一環として、地元銀行の寄付講座や一般市民を対象とした市民講座の提供は、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「教育研究の将来の発展という視点から、学術交流、単位互換等、地域の大学間連携を一層推進する」について、平成 20 年度には、文部科学省戦略的大学連携支援事業に当該法人を代表校として岡山県内の大学、高等専門学校、研究所が連携する取組「連携拠点「科学 T r y アングル岡山」による多角的科学の推進と地域活性化への挑戦」が採択されるとともに、平成 21 年度には、文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに「『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎

力・地域発信力の融合を目指した教育」が採択されるなど、地域の大学間連携へ向けた取組を大きく推進させていることは、特色ある取組であると判断される。